

研究・調査報告書

報告書番号	担当
8 4	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>The combined influence of leisure-time physical activity and weekly alcohol intake on fatal ischaemic heart disease and all-cause mortality</p> <p>余暇の身体活動を行いかつ飲酒 (週単位で評価) した場合の虚血性心疾患死亡及び総死亡に対する影響</p>	
執筆者	
Pedersen JO, Heitmann BL, Schnohr P, Gronbaek M	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur Heart J. 2008; 29: 204-212.	
キーワード	
<p>Physical activity, Alcohol intake, ischaemic heart disease, All-cause mortality, Survival analysis</p> <p>身体活動、飲酒、虚血性心疾患、総死亡、生存分析</p>	
要 旨	
<p>目的： 余暇の身体活動を行いかつ飲酒 (週単位で評価) している人の、致命的虚血性心疾患死亡及び総死亡に対するリスクを調べる。</p> <p>方法： 20歳以上で虚血性心疾患の既往のない 11914 人のデンマーク人を対象に前向きコホート研究を行った。</p> <p>結果： 追跡期間は 20 年までであり、この間 1242 件の致命的虚血性心疾患、5901 件の死亡があった。男性女性ともに身体活動が高いほど致命的虚血性心疾患と死亡に対するハザード比は低かった。加えて、週単位で飲酒量を評価したところ、飲酒量が多いほど致命的虚血性心疾患は少なく、飲酒量と総死亡の関連は U 型であった。身体活動の程度に関わらず、非飲酒者では致命的虚血性心疾患に対するハザード比は最も高く、一方総死亡に対するハザード比は非飲酒者と多量飲酒者で最も高かった。加えて飲酒量に関わらず身体活動のない群では致命的虚血性心疾患、総死亡に対するハザード比両方が最も高かった。つまり、致命的虚血性心疾患・総死亡ともに、ハザード比は運動習慣のある中等量飲酒者においてもっとも低かった。</p> <p>結論： 余暇時間における身体活動と、週単位で中等量の飲酒をしていることの両方が、致命的虚血性心疾患と総死亡のリスクを下げるためには重要である。</p>	